

Handwritten Japanese characters on a vertical strip of paper on the left side of the cover. The characters appear to be '天保' (Tenpo) and '四年' (Shi-nen), indicating the date of the book's production.



遠
1644
4



へ13特
1644
4

四言

同書

秋揚枝才四

鳴田一とて竹無子梅

一とて一休竹無因竹よて園東下向れ砌わると麻菴
とて一者よ平ゆと一者ようけと世竹無ハ例の所存
者よ混紙包と負せたりとよ下甲の藤のうら
引とて竹の六月夏よぬ事よとめきつ一破きと三合を
引とて小あつとゆや大はの廣れ浦向うとめきとめぬ
玉とてらまはれ縁よ版とれをうらとて右とれ者
物とて終りさりとてみかほくよまらうとてみま
巻とてちよとてあのみとてさうとて山や坂下まをころび

同書

たらしむらやされん志ざり火繩は火と付
ぬるこのこつららやとむ地底堂はまぬれ
一体やそけあなりんか終る所は号とま
の巻と名出しそむか程よりいなり
用眼は倍びし印のうらとむ
藤三々みれそやとくらん
くなんと付給へも候は須原壇の方より妙なり
所をなまてうく

くまのさくらもさくらどつらぬど
鼻をも替れふむいけ

こい地底堂の通あるこい建つは堂内ゆを
ゆをよして弄流た多うりをうやしくおが
しりしてあつ毒しや万代までもまて薬とせう
の素儀とく其世は是もてりてはは折舞がま
福し治らる病への繁栄もや石業師のそけをく
先石はげんがるねどやせめて恨めやうよ我とらん
ちりあふと新なりさればよこし後くし目しすら
とて日々平結帯もあやうる尾くまよほとひて
候れ磯へ付ぬらうこいぬらうとこいひてみりあひ
あひこいのれをぬらうふ七里とくしはまの回

をのいはいとハツど地獄のよれ花こくらう命と掛て
乾かろふ居常一と柱けと懸田とりいせうくの
是い屋云行ろととと戯云いして幸川のうとん
之而麦切望まうくいざとついつま書れむつとらう
此牛蠅や神の五付あぢもあゝ二八むりこみえはらう
とくやささかこんいろよあぢうさんせれ懸くお居
いと同へむをやはけいゆつと別ていあゝとんうらり神
まぢう墨修女席の名を逢左たよあゝ小並松も花
此咲たろあ川やさきこの神の服あけよ川とめうねて
こりや乾よ紅紫の赤坂やこゆうちとてりりり

よなま田よふと逢ふあちうとらうのあゝ川やうらり
らうかうさゝい摺うけても落ぬうら尻はとれがよいやう
まらうすひるやうささしてゆめんさうさうらりあゝい
そんともふんも世うまくゆつと急くすも腹よ
月と赤坂へかりうととととついろは溪松のらゝこよ
ほじき月とまゝしきうとん付れあゝとづれをしや
うまごいひろいあぢらやほと入るんあゝらいとらびよ
あろり掛川や新坂懸して行程よ草外もとらひは
も祈つとや裳よ茶やの録くつむお中もあゝふて
氣もあぢ紗やささい又砂糖ハ脾胃とやうあぢ

新井の川よりつぎとめふとせしむるはよきと名く又
こゆべしといふはひさや小坂の中山中くよたえぬ
の浦全一人井川とこれをして名とすくが
しや敷れふささるるきれ白波よきとつづて
とまりいらうくられとて虎め川越付てな後うら
ね二人のものを先たさうふなりれめさしとて
しよける物うた言ひぬい助川中よて城よづぶく
つひがよ南平といふくめらうつづてよ五付々うが
不重なるか一体の目まよよとてこみ敷らぐ
といふふまりれを初高しをよいさつまり目く

めさして物といふも色どてさうなる
やせつとてそまひける川越中てさ
はもうかそむいどの大河とてわれくそ
我おどもがわも及てく左様よあやな
さとしそつひりけるたえんがくたぬ一め
まれのやまさんがつまりいなるやまさんがた
やわくしと後らぬめらと川越まてしん換あさ
こゆべしれぬとて金泥がみかよちりり
さつまりまてし日中一れち河りて令
よたえぬれりまてしとてさ城川まてり



四

六

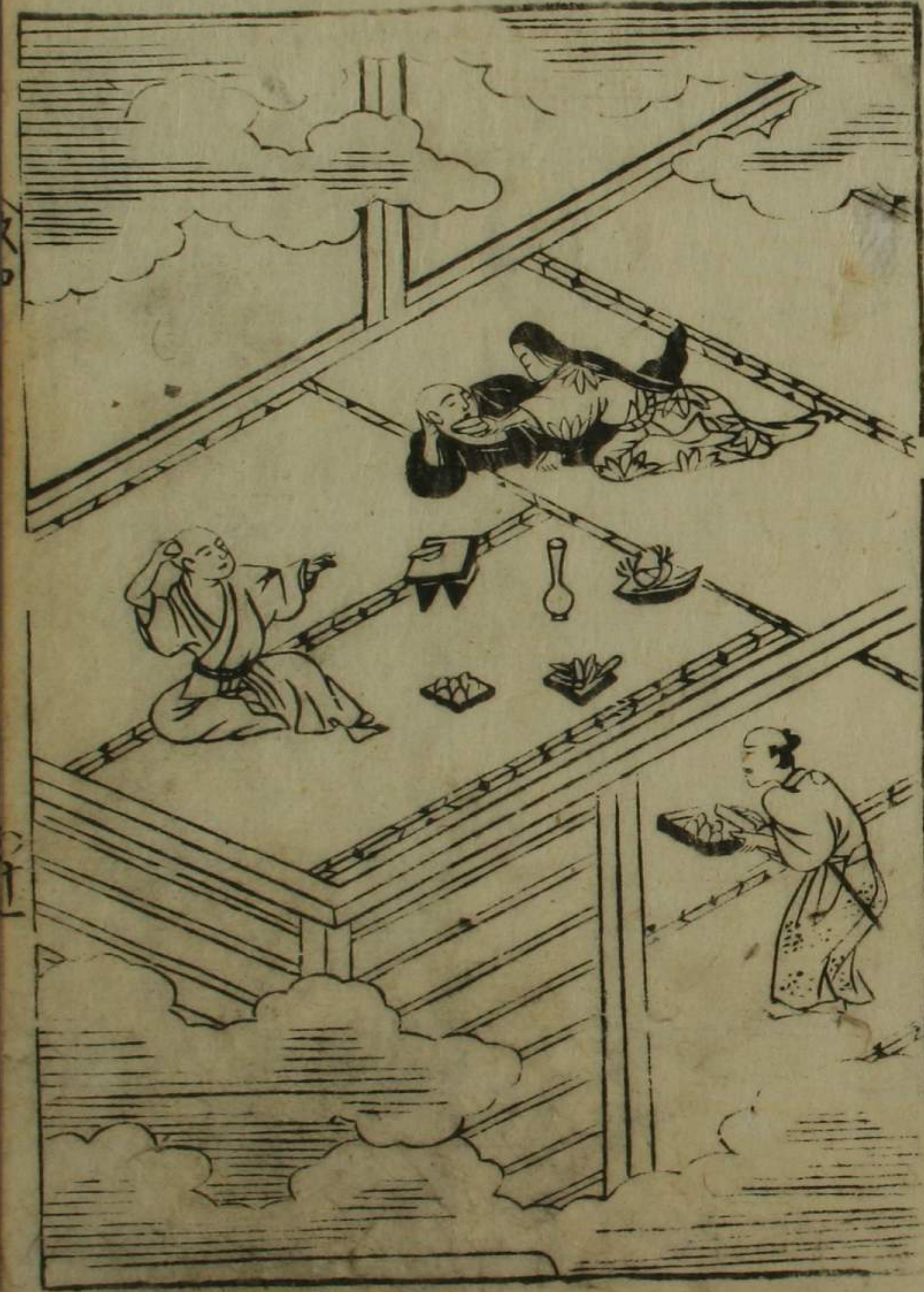
四
 五
 此れ最さいようきこりけろ一体いふく息いつきりき
 ちとく自とらちせつむいいよ遠て働くこらき
 小こまま上上ままてあの山とり尾おのまりお
 のなりくくくくくくく

おんどいであまうしとわろどい尾るる秘もとてた
 じりりらあまの分がられぬぞううしれ竹文所
 居ぬれ揚子いちく安高とね粉まあけつりせけつ何
 が衆信の名方るれ一服までととせ腫らまんも
 平よなり痲痛發熱しや今らんくみえまひてわぬ
 の床と立てのけ大腫らんでおどろけらり麻痺の
 いぬく味つり抱ひけつよぬまわしれ床居るまて
 多人の難病よしぬて寸天すひけつひいさ
 うさあほも石あしりけつけ痺と口瘡下て
 を流る所のたしけめれうらうらうししられんとて

志也ろたこしととるそしさんよちあかすれ
 一さのいでららぬあまやかりうじん海しよむな
 しくたうげんまていりまればぬわれ入目らう
 さらゆらびらうわらぬと腹れあまりよ
 ぬえけめぬれそしさんあし
 ころういしんととるがさあありらん
 竹文も 東
 ころうまをんつらぬころけ麻痺を
 ういしりけりやじんをりあかり
 根竹文あるの志難と救まらせうましくもか
 老い
 老い

旅宿を此亭にまゐりては出あつたりけり
なかりとて酒を飲ませ下女をせしむる
腰をゆるぎさせ血がめぐりてさう
ゆるりなかり寝とて無とたりけり
とあり種なる女もあつて肥あつて
中いひてきて何とほしきあつて
おのりさうおめとて猿はたさ
名をまへては咳習ひうちとけり
百もたりてもなごむさくさく
お美ひさびさよ清ん

いかにあつてなかりけり
なかりとて酒を飲ませ下女をせしむる
腰をゆるぎさせ血がめぐりてさう
ゆるりなかり寝とて無とたりけり
とあり種なる女もあつて肥あつて
中いひてきて何とほしきあつて
おのりさうおめとて猿はたさ
名をまへては咳習ひうちとけり
百もたりてもなごむさくさく
お美ひさびさよ清ん



くねまひしりそれを女今かうきつてけまてもの
仕廻しきまひくまらうんしとついでかたりしよわある
ねうらささこふおかへてつてねうらくちぬうこ
しりもりくとあう女又う

くまれぬしりかふいられかたしり
しんくしりよわけてとささかん

くついでぬりぬ一休もそれしつてうら
今更いましりぬしりしりしりしりしりしりしりしり
情なさけがうい避ひべしりしりしりしりしりしりしりしり
て枝えだゆめれぬハ板いたぐしりしりしりしりしりしりしりしり

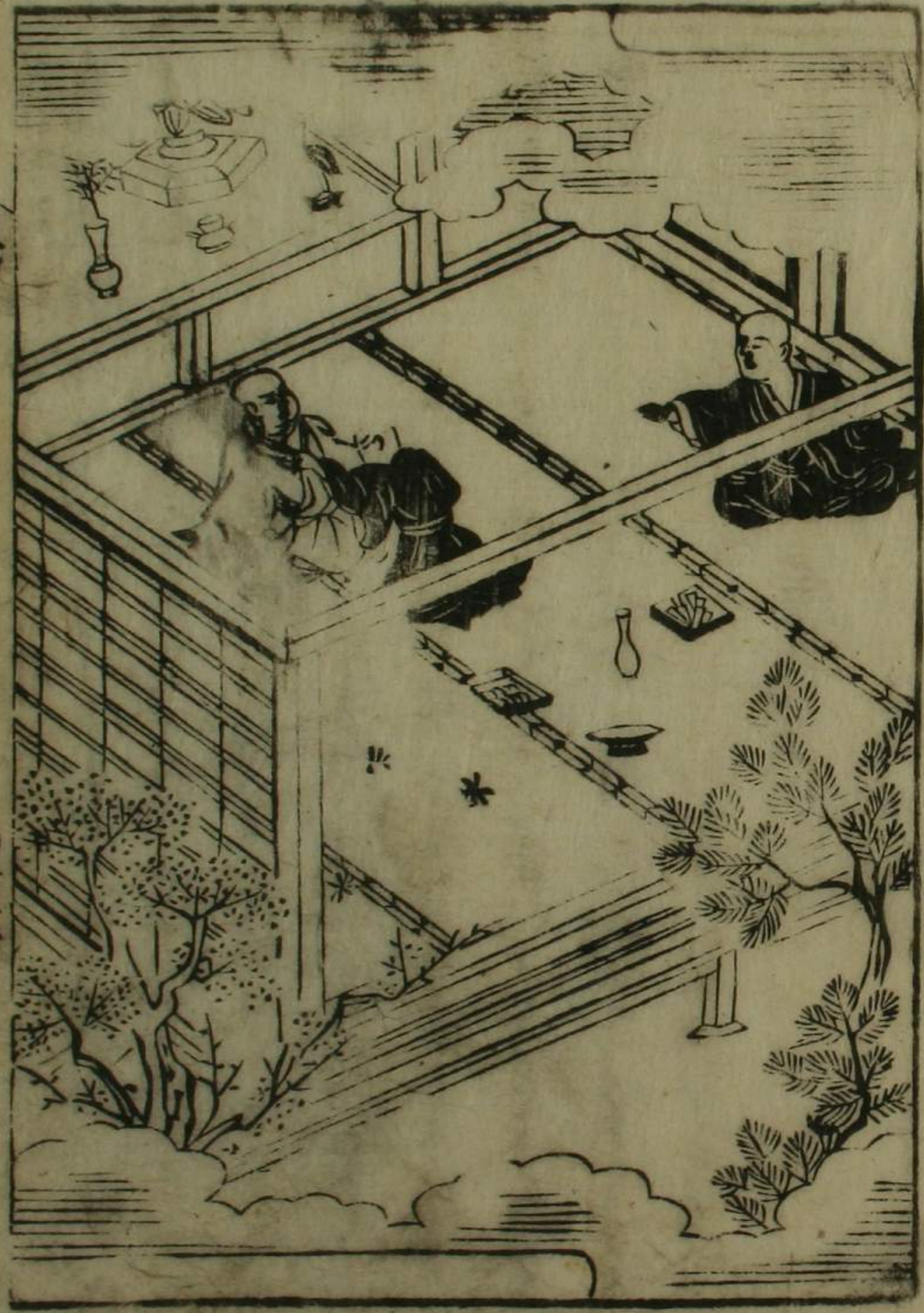
いづし竹たけ赤あかがさいびきせ際い一膳いっしんの刀やいばを横よこ
りしてすたさの志こころまりとしりしりしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
あひ湯ゆ友ともよまらりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
るんとつしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
そびしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
よや又ハ酒さけの辨わきましりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
ちやましりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
いきつ足あし音ねうらりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
海うみよ荷につりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

秘けりしはう皆いふ理なるべし秘しはすうげ
 してか換れしと櫻よはり傳へば法さしよと
 へりわれは金錠敷と兼中れはおはるてん交
 してくはりてさかくおは入お解へ一金とら
 なることお中れはたし思て世間と個を
 さりてせまぐおと作られけりよ取し物
 色はむれは事とてい色と和向換よ也月換
 妙まおはるえおとくおとていとしてお
 てゆ

玉一はれお

一体のは赤子様月とつりは坊推付が
 のはと切てしうく盗物づらうとわる或時
 付多いていくよ小僧若年まことまじれば
 中作とぬい月おはりていおけごま
 どおとぬい月おはりていおけごま
 習ひていぬい月おはりていおけごま
 小僧若年まことまじれば
 けりおとぬい月おはりていおけごま
 と道ととげしやとぬい月おはりていおけごま
 しよがわつひるて中くらぬい月おはりていおけごま

林月女きつね付つきとこいはいとねむのさくら
 月つき一ひと味あじさるべーがよつていともわり
 のこわらうきよとつてのけさるふかうさうさ
 竹たけ女むすめ言こととあふみ指さしはそれぶらいらのささささせう
 ハウわらぶーはら楓あきハ遠とほいひわりこそととれ
 梨なし十五ごじゅうわりのさうさうつくつ救たすわいりさどとて
 楓あき林はやし月のいんく何とせうハウわらぶー
 とらぐんぐんとわセウとハウハはままささいいとて
 とおておてて笑わらひひてて後のちよ



まねしよましかれさくいのせうハウ

あそひまねくはらひいよまき

く釋英して肝とつぐ一抄百なりと人智

のま子なりこれ強一休のは中子よることもそ

いづき梅橙ハ一葉ありとPしこれ竹とれす

なり久きまきいめあむけうら小むあれ極

く慈蜂いんともかく花出さりまかれむ竹

舞下りま一の連珠せむやとねけりめされあれ

娘れま本もい人竹舞せりされむじよあつ物

のまうつとまうまを今まうんてまかゆと

まうつとまうま出てはまきなりとらうつことま

まうまあまうまうまの極なりまう又あてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

まうまあまうまのあれたのまよていばあてま

のせいのまゝしては腐ちるゆゑにさりとてこれをこれ
とてしるゝもさるゝ事礼の義式と何れも保つて
祈り礼儀のむけりゆゑに一体わち、礼儀のよ
ふいてさうなれまゝにやうなまじりひちし
りうとひんちりしりうと皆く持成さして
あれまゝに防おれぬまじりとして目とひん
ちひんちりしりうかくて引合はしりうと
とけりて聖意の考たは日ゆんととて、対極の義
中よりいひおれけいは法書まゝに成てよこしくと
一体わち事、やま戒はた今成たことまじり目

反浄ちよせりしりうとていひたりされん
みか、肝とてしりうとていひたりされん
しりうとていひははたしりうとていひたりされん
りま生花の海にりしりうとていひたりされん
うらまよとていひははたしりうとていひたりされん
らさよ入海上は月の光とていひたりされん
とていひははたしりうとていひたりされん
此なりとていひははたしりうとていひたりされん
君れ中れとていひははたしりうとていひたりされん
の二つよとていひははたしりうとていひたりされん

又さうよもあつて馬を車にのりて
 今正徳と云ふはたゞれ喜梅全う守を
 撫よあつて思ふとまいて混迷来生のむら
 めさうんや又狸よあつて腹教乃らん
 空をたつてひびきよぬん玉形れ
 うまうらふ音教うといひ愛とまいて
 ぬ其付正徳のつくとおろまつき
 らびまりけり川守の師如心坊と始
 一のゆ成おありがさきゆり
 やまうらひつうくそ如心坊うら
 びの地よ付

今の世にまじりてくはるに
 引守りてハ知る速いとなり
 一もあつてまじりて
 のあつてまじりて
 さびらうは
 たつてまじりて

ささりののりり 細ら坊うさ

あそびごとく さらされたるごとく ありーのあが
まごみあ 袖分ちあうて ゆりよけ

一体解より後入

一体和るあう 針竹やがまよ 衣あつまがかり
ましきうは鳥い声ものやまうく 鳴んをれけ
とまうし たりたり 用れうちもこはさうり ちか
いさゆしん ともおのり へ出てさうり 今よこか 白
らう 折船の 帆はまき ぬきよ ぬれまぬ ぬきつ
袖ごとく 縁より 佐野の ぬきま ぬりれ ぬき ぬき

ささりののりり 細ら坊うさ
あそびごとく さらされたるごとく ありーのあが
まごみあ 袖分ちあうて ゆりよけ
一体和るあう 針竹やがまよ 衣あつまがかり
ましきうは鳥い声ものやまうく 鳴んをれけ
とまうし たりたり 用れうちもこはさうり ちか
いさゆしん ともおのり へ出てさうり 今よこか 白
らう 折船の 帆はまき ぬきよ ぬれまぬ ぬきつ
袖ごとく 縁より 佐野の ぬきま ぬりれ ぬき ぬき

くれどなる餅^{もち}ち椀^{わん}のひさよしてこへんむうく
とび出る是よしてむひくをまれさめたるんじ
て後^{のち}りいさしてくあやういぬ^{いぬ}てるひの家
えむい家の鳥おまむむひせーららひくき坊
かろが物^{もの}病^{びょう}なる痰^{たん}うかろりてすまゑんとい
あどあうげなまらやうちくよあひてこそ不^ふ慮^{りょ}
吐^ひ出^いく—直^ちきまがく見^みむとれこれけけめとれあひ
さりなれえんそれ何^{なに}もれかろそ教^{おし}とんよとく
てうらんぞおとてすくく人^{ひと}まじく大^{おほ}使^{つか}りれ毛^けわ
るよそまけるとあおのひうくさるいゆふな

そは依^よりつき終^はりすやとらふさればか候^{まう}め
うんそく員^{いん}備^びのりりもせぬとれとくへまべとくし
そそと出家^{しゅつが}ひまありてあをとたもつをを辨^われ海^{かい}
をせまうまげたりよ世^よとよこれいんううんは終^はた
とれねるく終^はれいやくとれいあうくあうべ
こままいばしもまうくわう梅^{うめ}とおひあうくなり
あといいふんいやくわいやくと痛^{いた}いむとせむ程^{ほど}
りり人^{ひと}まじくくは終^はたり

